

# 安全データシート

作成: 2012年 7月10日

改訂: 2023年 4月25日

## 1. 製品及び会社情報

整理番号	: KF104-03
製品名	: パスポート顆粒水和剤
会社名	: クミアイ化学工業株式会社
住所	: 東京都台東区池之端 1-4-26
担当部門	: サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号	: 03-3822-5180
FAX番号	: 03-3823-6830
緊急連絡先	: 平日 午前9時～午後5時 (電話番号03-3822-5180)
推奨用途及び使用上の制限	: 農薬

## 2. 危険有害性の要約

### 化学品のGHS分類

健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分2A
	発がん性	: 区分2
	生殖毒性	: 区分2
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	: 区分1
	水生環境有害性 長期 (慢性)	: 区分1

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

### GHSラベル要素

#### 絵表示



注意喚起語: 警告

### 危険有害性情報

・強い眼刺激

- ・発がんのおそれの疑い
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

#### 注意書き

##### 【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ・環境への放出を避けること。

##### 【応急処置】

- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

##### 【保管】

- ・施錠して保管すること。

##### 【廃棄】

- ・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

### 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名／一般名：テトラクロロイソフタロニトリル／一般名：クロロタロニル(TPN)

成分及び含有量：クロロタロニル(TPN)	72.0%
<その他> 界面活性剤、鋳物質微粉等	28.0%

化学式：C<sub>8</sub>Cl<sub>4</sub>N<sub>2</sub>／クロロタロニル(TPN)

官報公示整理番号：安衛法 4-(7)-539	クロロタロニル(TPN)
化審法 (3)-1805	クロロタロニル(TPN)

CAS No.: 1897-45-6 / クロロタロニル(TPN)

#### 4. 応急措置

吸入した場合: 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、眼科医の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 口をすすぎ、無理に吐かせない。医師の診察/手当てを受けること。

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤: 霧状水、二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤等

使ってはならない消火剤: データなし

火災時の特有の危険有害性: 燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、塩化水素等が含まれる。

特有の消火方法: 消火のための放水により、消火水が下水や河川等の水系に流れ込まないように適切な措置を行うこと。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置: 適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用し、風上から消火活動を行うこと。

消火時の注意: 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移すこと。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 漏出時の処理作業には、保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣等を着用すること。粉じんを吸入しない。

環境に対する注意事項: 漏出した物質が河川、湖沼、海域等に飛散、流入しないように注意すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 飛散したものを掃き集め、密閉できるから容器に回収する。

二次災害の防止策: 付近の着火源となるものを速やかに取り除くこと。

#### 7. 取り扱い及び保管上の注意

##### 取扱い

技術的対策: 設備の密閉化、局所排気装置や全体の換気設備を設けること。

安全取扱注意事項: 容器の破損や容器からの漏洩に注意すること。みだりに粉じんを発生させないこと。

接触回避: 情報なし

衛生対策: 吸い込んだり、皮膚や眼に触れないよう、長袖の作業衣、保護手袋、保護マスク、保護眼鏡を着用して、できるだけ風上から作業すること。取扱い後は、手、顔、眼等を良く洗い、うがいをする。

#### 保管

安全な保管条件: 容器を密閉し、適当な換気のある乾燥した冷暗所に、施錠して保管すること。飲食品や飼料と区別して保管すること。

安全な容器包装材料: 情報なし

### 8. ばく露防止及び保護措置

#### 許容濃度等

管理濃度: 未設定

許容濃度: 日本産業衛生学会及びACGIHで未設定

設備対策: 粉じんが作業場の空気を汚染しないように、設備の密閉化、局所排気装置の設置・使用、又は全体の換気を適切に行うこと。取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置すること。

#### 保護具

呼吸用保護具: 防じんマスク

手の保護具: ゴム手袋

眼、顔面の保護具: 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具: 保護服(長袖、長ズボン)、保護長靴

特別な注意事項: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

### 9. 物理的及び化学的性質

外観等	: 淡褐色水和性細粒
臭い	: 情報なし
pH	: 9.4 (20.0 g/80 ml 水溶液)
融点・凝固点	: 情報なし
沸点・初留点及び沸騰範囲	: 情報なし
引火点	: 情報なし
自然発火点	: 情報なし
燃焼性	: 情報なし
爆発下限及び爆発限界上限界／可燃範囲	: 情報なし
相対ガス密度	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び／又は相対密度	: 0.86 (見かけ比重)
溶解度	: 情報なし

n-オクタノール／水分配係数(log 値)	: 情報なし
分解温度	: 情報なし
動粘性率	: 情報なし
粒子特性	: 情報なし

#### 10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の取扱いにおいて反応性なし。
化学的安定性	: 通常の下条件下では、酸、アルカリ、光に安定。
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 情報なし
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、塩化水素等が含まれる。

#### 11. 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラット(♀) LD <sub>50</sub> > 2,000 mg/kg (区分に該当しない)
急性毒性(経皮)	: ラット LD <sub>50</sub> > 2,000 mg/kg (区分に該当しない)
急性毒性(吸入)	: 情報不足 (分類できない)
皮膚腐食性／刺激性	: ウサギ 刺激性あり (GHS 分類基準以下であり、区分に該当しない)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: ウサギ 刺激性あり、250 倍希釈液は実質的に刺激性なし(区分2A)
呼吸器感作性	: 情報なし(分類できない)
皮膚感作性	: モルモット 陰性 (区分に該当しない)
生殖細胞変異原性	: 情報不足 (分類できない)
発がん性	: 区分2に該当する成分を 1.0%以上含有する。(区分2)(TPNは変異原性なし。閾値あり)
生殖毒性	: 区分2に該当する成分を 3.0%以上含有する。(区分2)(TPNはラット催奇形性試験で、親動物に有意な体重増加抑制がある用量において、初期胚死亡の増加(有意差なし)が見られている)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 分類できない
誤えん有害性	: 情報なし(分類できない)

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

魚類	: コイ LC <sub>50</sub> 0.042 mg/l (96hr)
甲殻類	: オオミジンコ EC <sub>50</sub> 0.18 mg/l (48hr)
藻類	: 緑藻 ErC <sub>50</sub> > 2.2 mg/l (72hr)
	NOECr 0.1 mg /l

上記の結果から、水生環境有害性 短期（急性）を区分1とし、水生環境有害性 長期（慢性）については、以上の結果と急速分解性データが無いことから区分1とした。

残留性・分解性	: 情報なし
生体蓄積性	: 情報なし
土壌中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし(分類できない)
その他	: 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。 水産動植物に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

## 13. 廃棄上の注意

使用量に合わせて薬液を調製し、使いきる。容器の洗浄水等は河川に流さない。  
都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 14. 輸送上の注意

移送取扱いは丁寧に行う。  
輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類	: クラス9(有害性物質)容器等級Ⅲ
国連番号	: 3077(環境有害物質、固体)
国内規制	
海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
陸上規制情報	: 道路法の規定に従う。

#### 15. 適用法令

農薬取締法	:登録番号 第22158号 (株)エス・ディー・エス バイオテック)
消防法	:非該当
労働安全衛生法	:非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	:第一種指定化学物質 260 クロロタロニル(TPN)
毒物劇物取締法	:非該当
化審法	:クロロタロニル(TPN) 一般化学物質(旧第二種・第三種監視化学物質)
水質汚濁防止法	:指定物質 クロロタロニル(TPN) (政令第3条の3第32号) 事故時の措置・報告対象
船舶安全法	:環境有害物質 (固体) 有害性物質 等級9
航空法	:その他の有害物件 分類番号9

#### 16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。  
使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

- 引用文献:1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法  
2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針  
2019年6月 社団法人 日本化学工業協会  
3) 農薬中毒の症状と治療法 第19版 2022年4月 農薬工業会  
4) GHS文書 改訂第6版(2015年)  
5) (株)エス・ディー・エス バイオテック パスポート顆粒水和剤 安全データシート  
(2023年3月24日改訂版)

#### 作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大阪 (年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話	072-726-9923
つくば(毎日9時~21時)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。